５３ページ修正

資料 1-2

2　歯と口腔の健康づくり

現状と課題

○３歳児健康診査のむし歯は減少傾向にあります。しかし、一方で、１人で多くのむし歯を有する３歳児の割合は増加傾向にあります。

○年長児及び小学校１～４年生にフッ化物洗口を行うなど積極的にむし歯予防に取り組んできた結果、小学校６年生のむし歯のない児童の割合は県平均と比較しても高くなっています。(令和４年度愛知県の歯科保健事業実施報告)

○歯周疾患の予防のためには、若い年代からかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健康診査を受けることが必要ですが、30 歳の節目歯科健康診査の受診率は 9.3%と低い状況です。また、40 歳で歯周炎を有する人の割合は 67.8%と県と比較して高い状況です。引き続き、歯科健康診査の重要性を啓発するとともに、受診しやすい体制整備が求められます。

○高齢化が進む中、しっかりと噛み、飲み込むことができるよう歯や口腔機能の維持・改善を図り、オーラルフレイルの早期発見と改善に向けた支援が必要です（重点課題 2)。

指標

目標項目	現状値	目標値(R18)
1歳6か月児で仕上げみがきをする親の割合の増加	75.3%(R5)	90.0%以上
むし歯のない3歳児の割合の増加	93.6%(R5)	95.0%以上
3歳児で4本以上のむし歯を有する者の割合の減少	6.4%(R5)	0%
むし歯のない 11 歳(小学校6年生)の割合の増加	89.8%(R5)	90.0%以上
歯肉に炎症所見を有する人の割合の減少(14 歳、中学3年生)	19.2%(R4)	10.0%以下
歯周炎を有する人の割合の減少(40 歳)	67.8%(R5)	50.0%以下
節目歯科健康診査の受診率(30 歳)の増加	9.3%(R5)	15.0%以上
口腔機能･歯科健康診査(76 歳)の受診率の増加	11.0%(R5)	20.0%以上
年1回以上歯の健康診査を受けている人の割合の増加	56.4%(R5)	70.0%以上
デンタルフロス、歯間ブラシなどの歯間清掃具を使用している人の割合の増加	57.8%(R5)	70.0%以上
80 歳(75 歳～84 歳)で 20 本以上自分の歯を有する人の割合の増加	52.0%(R5)	75.0%以上

６６ページ修正

（２）高齢者

【歯と口腔】

○口腔機能の低下は全身のフレイルにもつながっていくことが指摘されています。自分の歯で、よく噛んで食べることを推奨し、高齢期のオーラルフレイルの予防を図ることが必要です。

【栄養･食生活、食育】

○本市において低栄養傾向の高齢者が増加しています。また、一人暮らし高齢者が増加しており、食事づくりの負担などで、栄養に配慮することができにくくなることが予想されます。また、孤食が増えることなど、健康的な食生活が送りにくくなることが想定されます。そのため高齢者の食に関する様々な支援が必要となってきます。

【運動･身体活動】

○本市においては、高齢者の歩数の減少や運動習慣者の割合の低下がみられます。フレイル対策の観点からも、市民が意識的に身体活動に取り組むことが重要です。

【こころの健康、地域、社会】

○地域での役立ち感は、高齢者の心身の健康にも良い影響を及ぼします。高齢者のつながり、居場所づくりを様々な側面から支援していくことが重要です。

（３）女性

【生活習慣】

○妊婦の健康は胎児の健康や児の将来にも影響を及ぼすことから、妊婦の飲酒・喫煙や周囲の家族の喫煙による害および妊娠中の口腔ケアの必要性について周知するなど、健やかな妊娠、出産に関する知識を普及することが重要です。（プレコンセプションケア）

○40 歳代以降では更年期障害として体調不良や口腔内トラブル、情緒不安定などの症状が現れることがあり、更年期に入る前から、正しい知識や対処方法の周知、周囲の理解を図っていく必要があります。

○女性は男性よりも転倒や骨折などのリスクが高いことから、高齢期における要介護状態を予防するためにも、骨粗しょう症検診の受診を促進していく必要があります。若いうちから骨密度が低くならないように周知啓発することが重要です。

○アンケート調査によると、健康診査やがん検診の受診率が男性よりも低い傾向があります。受診しやすい環境づくりに取り組む必要があります。

【栄養･食生活、食育】

○本市における女性のやせの割合は増加しています。過度なダイエットは、妊娠・出産への影響や骨粗しょう症のリスクが高まるため、適正体重に関する知識の普及が必要です。

プレコンセプションケア

若い男女が将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康と向き合うことです。